

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内 1 丁目 3-30
TEL 088-821-2000
FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1092 2011 年 3 月号

国際森林年記念事業

「海岸林の再生に向けて」

国際森林年記念事業の一環として、高知県室戸市羽根町千ヶ谷国有林の潮害防備保安林において、植樹イベントを開催しました。

【詳細は2頁】



INTERNATIONAL YEAR
OF FORESTS - 2011

2011年は国際森林年です

国際森林年記念事業
 「海岸林の再生へ向けて」
 〈森林整備課・治山課〉
 ・安芸森林管理署

二月一六日、高知県室戸市羽根町千ヶ谷国有林(潮害防備保安林)において、国際森林年記念事業の一環として植樹イベントを開催しました。

当保安林は、平成一六年の台風二三号による高波の被害を受けた箇所で、一日も早い森林の再生が必要となっているところでは、

当日は寒さも緩み晴天の中で、宮脇昭氏(横浜国立大学名誉教授)が推進している複数種の木本郷土樹種を混植・密植して自然淘汰、共存共栄して管理を必要とする森林が形成されるという「宮脇方式」により、アラカシ、スダジイなど一三種類四〇〇本の苗木を、地元の羽根小学校四年〜六年生児童五三名、室戸市職員、ガイド・タケナカビレッジ(株)、

(社)高知林業土木協会の方々と約一二〇名で植樹しました。

植樹を終えて、羽根小学校児童の代表から「今日、植えた木が大きく育つて、私たちの生活を守ってほしい」などの感想がありました。

注・木本郷土樹種とは、その地域に自生している樹木



植樹活動指導を行っている宮脇氏(右)



羽根小学校の児童による植樹活動

平成二三年度国有林
モニター会議を開催
 〈企画調整室〉

二月一八日、四国森林管理局において、「平成二三年度国有林モニター会議」を開催しました。

国有林モニターの取組は、国有林野事業の運営等について理解をいただき、開かれた国有林の管理経営に活かしていくよう、四国在住の二六名の方に、幅広い意見や要望等をお聞きすることを依頼しているもので、会議では、出席された一〇名の国有林モニターの皆様から、国有林モニターになった感想や国有林に期待すること等について、意見を頂きました。

(主な意見等は次のとおり。)
 ○森林環境教育については、都市部の学校であまり行われていないのではないかと、

また、国際森林年について、周囲で知っている人が少なく、関心の低さを感じている。もっと国際森林年や森林・木材の良さをPRしてほしい。

○環境も大事であるが、木材利用が順調でないと林業の再生はできない。

○イベント等の活動報告は広報でよく見かけるが、事前の案内等の情報が少ないのではないかと。広く多くの人に発信して、多く人が参加出来たら良いと思う。

○子どもが小さい頃は、よく森林公園に行ったが、国有林に対する認識は「国が所有している森林」程度のものであり、これほど重要で多様な活動をしているとは知らなかった。

○人材育成は林業再生のためにも重要である。森林・林業再生プランに基づく国有林における人材育成の取組は十分なものなのか。



モニター会議

木のおもちやで遊ぶ
森林・木工教室
 〈指導普及課〉

一月二三日、高知市立介良小学校において、森林・木工教室を実施しました。

この行事は、介良小学校の参観日の催し「ふれあい参加日・介良の祭り」で、木工製作の体験活動を通して森林への理解を深めさせたいと、学校側から依頼を受け、数年前から体験学習コーナーの一つとして参加しています。

体験学習コーナーは、地

域の方々の協力で、今年も二・三の講座が設けられ、森林・木工教室には昨年と同じ一〇組の親子等が参加しました。

はじめに、森林教室では、森林の働きや木材利用についてビデオで学習しました。

木工教室では、間伐や森林整備で切り出された小枝や竹を使ったえんぴつ立てづくりを行いました。

参加者は、一年生から六年生まで幅広い構成のため、予め加工した材料を選んでもらい組み立て方式の木工製作としました。

最後は、子供たちに木で作ったゲーム、「けん玉」、「コロコロビンゴ」、「射的」などで遊んで木の良さを体験してもらいました。子供も大人も大はしゃぎの内に講座が終了し、局としても来年度の講座に参加することを誓い終了しました。

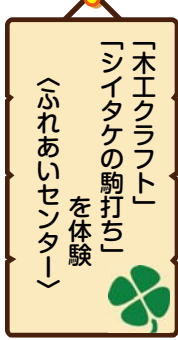
また、今回、この講座に

今年度「森林ボランティア研修」を受講された2名の方もスタッフとして参加されました。

参加しての感想は「森林整備で汗流すのもいいけど、子供たちとのふれあいや楽しいものだ」と笑顔でした。



えんぴつ立て作りの様子



四万十市立蕨岡（わらびおか）小学校の五・六年生

一五名が森林や木材について学習するため木工クラフトとシイタケの駒打ち体験を行いました。

一月二十八日は、木材の特徴や森林が地球温暖化防止に役立っており、木材が二酸化炭素を貯蔵していることを学習した後、ヤマザクラの枝を使ってクラフトを作成しました。

生徒たちは、慣れないノコギリやクラフトナイフを使って枝を輪切りにしたり、削ったりして思い思いの作品を仕上げていました。

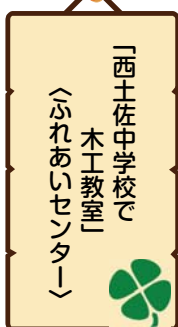
二月一五日にはシイタケの駒打ちを体験しました。当センター職員からきのこの種類や毒きのこの話、シイタケ栽培の仕方等を聞いた後、駒打ちに取りかかりました。

直径約一〇cmのクヌギに電動ドリルで穴を開け、シイタケ菌の駒を金槌で打ち込んでいきます。

約一時間で長さ一mのほだ木一〇本と五〇cmのほだ木一五本を造りました。造ったほだ木は校舎の裏の雑木林の下に伏せ、早ければ今年の秋には収穫できると楽しみにしていました。



ノコギリで切るのは結構大変



二月八日、四万十市立西

土佐中学校一年生二五名が、身近な自然の材料であるサクラの枝などを使って木工品作りに取り組みました。

まず、当センター職員が地球温暖化防止と「木材や森林」の関係について説明しました。

木工品作りに当たっては、作業中の刃物取扱と、木材の性質などについて説明を行った後、作品作りに取りかかりました。野球部の生徒は、ホームランバットを作り初めましたが、サクラの枝は思いの外「硬い」ので削るのに苦労していました。また、女子生徒はアンパンマンやクマのストラップ等のかわいらしい作品を仕上げていました。

生徒達は、日頃、使い慣れていないノコやナイフに思いのほか苦労していましたが、仕上がった自らの作品に感動していました。

生徒たちには、このクラ

フト作りを通して、森林や木材への関心・興味に繋がる教室となりました。



野球のバット作成中

「竹炭作りに挑戦
〈ふれあいセンター〉

二月一七日、宿毛市立橋上（はしかみ）中学校の一年生五名が竹炭作りに挑戦しました。

中学校から当センターに地域の自然や産業についての環境学習の依頼があり、橋上地区は宿毛市中でも昭和初期までは製炭業が盛んであったことから、簡易炭窯で竹炭を造

ることにしました。

朝一〇時から鉄製の簡易炭窯の周りをコンクリートブロックと土を使って炭窯を造り、三〇分で完成した窯に長さ四〇cm程度に切りそろえた竹を約九kg入れ口火を焚きました。

煙突からは真っ白い煙がもうもうと出てきます。

竹炭が出来るまでの間は、空き缶を使った花炭作りにも挑戦しました。空き缶にマツボックリやドングリ、ニンジンやピーマンなどいろいろなものを詰めてたき火の中に入れて焼き、約三〇分で花炭の出来上がりです。

口火を焚き始めてから約三時間後、真っ白かった煙突の煙は紫がかった透明な煙になると炭の焼き上がりのお知らせで、焚き口を赤土で塞ぎました。後は、炭窯の温度が下がり、

炭が取り出せるようになるのを待ちます。

その間に校庭の樹木の炭素現存量の測定を行いました。

木の直径や高さから木の重さを推計し、木の持つ炭素の量とこの木が吸収した二酸化炭素の量を計算しましたが、生徒たちには少々難しかったようです。

口火焚きから五時間が経過し、いよいよ炭窯を開けます。

窯の温度が思うように上がらず、心配しましたが、約三kgの竹炭ができました。備長炭とまではいかないまでも、竹炭同士がぶつかるとキンキンと音を立て、予想外のできばえに生徒たちは驚いていました。

生徒たちには、学校の周囲に広がる森林が地域の環境や産業に与える影響

について考える機会になったようです。



いよいよ火入れ

木工クラフト作り
（木はいろいろな使えるんだ）
〈ふれあいセンター〉

二月一七日、大月町立大月小学校の一年生四六名と二年生四一名を対象に、木工クラフト作りを開催しました。大月小学校は町

内の九つの小学校が統合され、平成二二年四月に開校されました。校舎は、新築され腰壁はスギ板張り、フロアーは竹製とふんだんに木製品が使われています。このような木の香り

漂う多目的教室において、一年生は午前中に、クマのストラップとモックンを作り、二年生は午後からクマとフクロウの置物を作りました。

当センター職員の手指導を受け、顔・耳・鼻等のパーツを自分で選び、ボンドを使ってバランス良く貼り付けて行きました。児童の中には、ボンドが乾ききらないうちに触ってしまったり、ボンドがはみ出してしまったりと、悪戦苦闘しながらも時間内に一人二個の作品を作り上げました。

木工クラフト作りを通して、教室に使われている木の柱や壁板やクラフトの材料としての木など、木は色々な使われ方があることや木の良さに気づいてくれたようです。



どれがいいかな

「遊々の森」
での植樹体験
〈香川森林管理事務所〉

二月一六日、高松市屋島国有林にある「遊々の森」にキドキわくわくコースにおいて、屋島東小学校四年生の児童二八名が森林教室とコナラ、ヒノキの植樹体験を行いました。

最初に四年生の教室で、里山についての森林教室を行い、人間の生活のすぐそばにある屋島の森林は、典型的な里山であることを学びました。

その後、「遊々の森」に移

動し、植樹を行いました。

児童たちは、まだ雪の残る斜面を鋏で一生涯懸命に掘り、木が大きく育つよう、丁寧に植えていました。植樹した後は、木杭に「自然大好き」や「大きく育て！」等と思い思いに書いたメッセージボードを木のそばに立てました。すべての苗木を植え、メッセージボードを立てた後、記念標柱を設置しました。

四年生の森林教室は今回で終了しますが、今後も植樹した木の生長や身近な自然に関心を持ち続けてもらいたいと思います。



雪をかき分けながらの植樹体験

「源平屋島の森で
ボランティア活動
〈香川森林管理事務所〉

二月二〇日、屋島国有林の「源平屋島の森」において、平成二二年度第三回目の森林ボランティア作業が行われ、約一四〇名が参加しました。

このボランティア作業は、郷土の自然に興味を持つてもらうことを目的に、地元自治会、高松市立屋島東小学校、ボランティア団体等の協力を得て、毎年五月、十一月、二月の三回行っています。

今回は、毎回行っている下草刈りのほか、つる切りを重点的に行いました。「源平屋島の森」は、日当たりが良いため、夏場にクズが繁茂しやすく、樹木を被覆してしまいます。クズの繁茂を少しでも防ぐため、草丈が短く根が見つ

やすい今の時期に、できる

だけ根を引き抜く必要がありません。参加した人たちは、握り拳ほどもある根の塊や、引っ張っても引っ張っても先の見えない長さに驚きながらも一生懸命クズを刈っていました。作業は一時間半ほどで終了し、現地解散となりました。

来年度も「源平屋島の森」では三回の森林ボランティア作業を計画しています。今後も、地元の方々と「源平屋島の森」を育てていきたいと思っています。



つる切りの様子

農林業体験
インターシップ「千本山」
〈安芸森林管理署〉

一月二八日に高知県安芸郡馬路村魚梁瀬（やなせ）千本山国有林の「千本山林木遺伝資源保存林で高知県立四万十高等学校一二名の生徒さんがインターシップを実施しました。

「森の巨人一〇〇選」にも選ばれている、「千本山橋の大杉」の大きさの体験など五感を使って体験したことが、今後の学習の動機づけとなったのではないかと思います。

参加された生徒さんから体験感想文が寄せられたので紹介します。



〈高知県立四万十高等学校〉

酒井 千尋
平野 勝己

千本山登山では、安芸森林管理署の皆さんにお世話になりました。魚梁瀬杉について詳しく説明していただき、魚梁瀬杉について学ぶことができました。

私は、屋久島研修で屋久島の杉を見たことがあったので、「魚梁瀬杉は大きい」と先生から聞いても、それほど期待はしていませんでした。しかし、実際に魚梁瀬杉を見ると、思っていたよりも大きく立派な杉だったのでびっくりしました。さらに、実際の木の幹と同じ大きさに作ったロープの輪でその大きさを体験させてもらいました。一二人が入ってもまだ余裕があり、見た目よりも大きいことに驚きました。



真優美杉での体験

登山をしながらたくさんのお話を学習しました。森林管理署の方々のお話は面白くて、きつい山道も楽しく登ることができました。

シカやウサギの食害などの話を聞き、動物の食害の違いを見分けるコツを教えてくださいました。食害の話聞いてみると、やはり四万十に限らずこの山でもさまざまな問題があるのだと思いました。他にも間伐自体をやってはいけない区域があったり、よい森林を育てお金になる木材を育てるための森林管理は、とても大変だということがわかりました。




鉢巻落とし

ふれたり、「親子杉」や「鉢巻落とし」などの名前の由来などを聞き、たくさんのお話をさせてもらいました。

展望台に着くとそこから見える絶景は、言葉にはできないくらい雄大でとても気持ちよかったです。この活動では、一方から観察するのではなく前後左右と全体をみて、いろいろな方向から観察することが大切だということを教えてもらいました。四万十にはない大きな魚梁瀬杉や、千本山のきれいな森林を見ることができ森林の大切さをあらためて学習することができました。この研修で学んだことをこれからの勉強にも生かしていきたいです。

足摺駅伝大会
に参加して
〈四万十森林管理署〉



高知県西部の土佐清水市で、二月一三日、第四三回足摺駅伝大会が実施されました。コースは、六区間二九km、参加チームは高校生チームを含め総勢三八チームで、当署からは、二チームが参加しました。

「四万十森林管理署チーム」と「えいじ軍団チーム」です。署チームは、中津川森林官の森下さんと、森林技術センターの河野君の活躍で、一七位と好成绩でした。特に、技術センターの河野君は、区間九位と大変な活躍でした。

えいじ軍団チームは、若手の吉田君、渡邊君が八km、六kmに果敢に挑戦し、タスキを繋ぎ、最終ランナーの中尾君がラストスパートでアントニオ猪木のパフォームンスでゴールに駆け込み応援の方々から大きな拍手

と声援が上がりました。

チーム成績は、明暗が分

かれたものの、署からの、

応援団も駆けつけ、両チー

ムとも練習不足の中、最後

までタスキをつなげ無事ゴ

ールすることが出来たこと

で、達成感、充実感でいつ

ぱいでした。また、地域の

方々にもたくさんの方々の

声援を受け、森林管理署をPR

出しました。来年に向け、練

習をかさね再挑戦すること

を誓い解散しました。



足摺駅伝を終えて



NO37 河野君 力走中



四万十森林管理署
須崎森林事務所
首席森林官 江入力男

ことが出来る観光スポットとしても注目されています。

須崎森林事務所は、高知県のほぼ中央に位置し、須崎市、中土佐町、津野町、四万十町に点在する国有林と官公造林を併せて約二〇〇〇鈔を管轄しています。

地域にあつては、この三月に須崎インターから中土佐インターの約七キロ区間が開通したことで、高知県西部への交通のアクセスが一段と良くなり、土佐の一本釣りで有名な中土佐町をはじめ、高知市からも日帰りで海や山の豊かな自然を気軽に親しむ

管内の国有林には、中土佐町上ノ加江の海岸に面して灘山国有林等が点在しており、シイノキやカシノキを主とした広葉樹林の魚付保安林(約一〇鈔)があります。そして、この灘山は、山頂にはその昔、海の監視と安全を守るため「雲囲城」と名付けた城があったそうです。また、平成一五年から地元の上ノ加江中学校と「ふるさと灘山」遊々の森(約五〇鈔)の協定もされ、学習の場としても活用されています。



上ノ加江港と灘山国有林(山頂が雲囲城跡)

管内には巨樹・巨木に認定された樹木はありませんが、地元の方にしか知られていない「じんば杉」という二本の杉の巨木が朴ノ川山国有林内の谷間にひっそりと立っています。地元の方の話では、約六〇年程前に伐採されようとしたそうですが、当時、搬出に困難を伴うためこの二本の杉は伐採されずに残されたと言うことです。一昨年六月に地元の方の案内で、須崎市立上分小学校の五年生

とこの杉を訪ねる事が出来ました。



「ばんば杉」と筆者：江入首席森林官

その他、林内には明治から昭和初期の時代のものと思われる炭焼き窯の跡が数多く残っており、高知県中西部の当時の生活の中で炭焼きが盛んであったことを伺い知ることが出来ます。

主な業務内容としては、保育間伐等の森林整備や小型バックホウによる林道維持修繕、境界管理等を行って言います。

また、請負事業で搬出間伐を行っています。

当森林事務所に着任して二年が経ちますが、搬出間伐については計画性を持って進めて行くことは当然のことながら、民有林に隣接した箇所が多いことや現地の地形など、間伐材の運び出しを計画するには困難な場面に出くわす事が多々あり、頭を悩ましながら計画を実行に移しています。今後、益々、国産材の利用が高まって来る中で計画的な間伐材の生産が出来る事を念頭に置きながら、円滑な業務運営を進めて行きたいと考えています。